

数学オリンピック財団から 2

理事長 小林一章

数学通信第 11 巻第 3 号 (2006 年 11 月) に国際数学オリンピック (IMO) と日本数学オリンピック (JMO) の小史と昨年 (2006 年) 7 月にスロベニアで行われた IMO における日本選手の成績を掲載させていただきました。今回は 2007 年 7 月に行われるベトナム (ハノイ) 大会に向けての JMO の様子及び成績を記させていただきます。また最近発足した科学オリンピック委員会についても記します。JMO 予選とジュニア日本数学オリンピック (JJMO) が成人の日 (1 月 8 日) に行われ JMO は 1340 名の応募者 (欠席 69), JJMO は 932 名の応募者 (欠席 55) によって競われました。JMO から 159 名, JJMO から 11 名が選ばれ、建国記念の日 (2 月 11 日) に本選が行われ 21 名が日本代表候補者となりました。IMO と同じ時間配分による 4 回のコンテストを含む春の強化合宿が代々木にある国立オリンピック記念青少年センターで行われ、6 名の日本代表が決まります。JMO のメダリスト (本選での成績による) 及び JJMO のメダリストを以下に記しますが、JMO のメダリストが日本代表になるとは限りません。本選での成績、春の合宿中でのコンテストによって代表が決まりますので逆転もあります。またアジア太平洋数学オリンピック (APMO) は 1989 年にオーストラリア、カナダ、香港、シンガポールの 4 カ国によって開始され、日本は第 17 回大会から参加して今年は 3 回目の参加となります。

2007 年 JMO のメダリスト

金	副島 真	筑波大学附属駒場中学校	中 3	東京都
銀	保坂和宏	開成中学校	中 3	東京都
銀	滝聞太基	筑波大学附属駒場中学校	中 3	東京都
銅	川島夢人	筑波大学附属駒場高校	高 2	東京都
銅	片岡俊基	高田高校	高 2	三重県
銅	吉田雄紀	灘 高校	高 2	兵庫県

APMO 最優秀者 渡部正樹 筑波大学附属駒場高校 高 3 神奈川県

2007 年 JJMO のメダリスト

金	西川秀明	灘 中学校	中 2	大阪府
銀	河内谷耀一	筑波大学附属中学校	中 2	神奈川県
銀	今村志郎	灘 中学校	中 3	大阪府
銀	木村冬馬	灘 中学校	中 1	兵庫県
銅	坂田龍玄	筑波大学附属中学校	中 2	東京都

銅	豊東柊哉	開成中学校	中2	神奈川県
銅	山中隆広	巣鴨中学校	中3	東京都
銅	平松拓馬	栄光学園中学校	中2	神奈川県
銅	黒田 彰	聖光学院中学校	中3	神奈川県
銅	濱崎立資	栄光学園中学校	中2	神奈川県
銅	井上秀太郎	灘 中学校	中2	大阪府

IMO は例年 7 月に行われ、出場資格は高校在学中または大学生になっていない 20 才以下となっていますので国内大会の時期では一般に高校 2 年生が出場資格を持つ最上級生となります。一方 APMO は例年 3 月に行われますので、数学オリンピック財団では高校 3 年生以下で過去に春の強化合宿に参加した人を受験資格有りとしています。APMO は選手を開催国に派遣するのではなく母国で受験し、その内上位 10 名を出場したことにし、その成績を開催国に送ります。また採点の公正を期すために各国の 1 位、3 位、7 位的答案のコピーを開催国に送る事になっています。

最後に科学オリンピック委員会について記します。現在日本には数学の他に化学、生物、物理、情報のオリンピック委員会（正式名称はそれぞれ少しづつ異なります）が有り、世界大会に選手を派遣しています。世界大会への参加は数学が一番古いと言っても IMO 31 回大会からで、どれも世界大会レベルで言うと後発国です。世界大会には天文オリンピックが有りますが、これには現在日本は選手を派遣していません。そのどれもが殆どボランティア的な団体がやっていますが、5 つ揃ったところで文部科学省もようやく重い腰をあげ（支援金は 2004 年度から出ています。）5 つのオリンピック委員会の上部委員会として今年の 3 月 22 日に日本科学オリンピック委員会が発足しました。ノーベル賞受賞者、教育界、財界、メディア関係から中心的な方々が委員となり、会長は江崎玲於奈氏です。事業は日本科学技術振興財団の一事業とし、日本科学技術振興機構が協力していくことになっています。この委員会の主な目的は財界、一般から寄付を集め、また初等・中等教育、高等教育機関へ各種科学オリンピックを周知させていくことです。各科学オリンピック委員会は財政的な基盤が脆弱な事と知名度が未だ高くないということで、受験生がそんなに多くありません。その部分の強化、支援を行い、日本の理数の才能を持った少年たちを見出し、育成する事を目的としています。この委員会の活動が軌道に乗り、理数離れから脱却し、才能を持った少年たちが多く集まってくれること願っています。